

私は六論会を代表しまして、発議第4号東京オリンピック・パラリンピック大会の中止を求める意見書に、反対の立場で討論いたします。

今回のオリンピック・パラリンピックは、世界中がコロナ感染と闘っている状況の中で、国際社会が連帯を確認する重要な場であるとともに、世界的な自国優先主義や排外主義に対抗する上で、国際的な連帯が一層必要になること、さらには国際社会での日本への信頼や、アスリート及び関係者の御尽力などに思いを巡らすと、何としても、安全安心の中で開催にこぎ付けたいところです。

意見書では、5月中旬の各種世論調査からの中止、延期の要望、ワクチン接種の遅れ、各国での感染状況、ワクチン接種での格差、医療従事者不足の件を理由に中止を求めています。意見書作成の5月中旬から、約1か月が経ち、ワクチン接種は当初予定の一日100万回を達成し、世論調査の結果も変化してきています。意見書での状況は、刻々と変わりつつあります。この期に及び、再延期ができない中で、中止を求める意見書自体が、期を逸しています。今は、中止するか、開催するかではありません。インド型のウイルス感染が上昇している中ではありますが、問題はいかに安心安全に開催するかの条件整理です。それをしっかり積み上げていくしかありません。

冒頭に申し上げた、今回のオリンピック・パラリンピックにおける特別な意義として、世界中のコロナ禍の中で国際社会が連帯を確認する重要な場であるとともに、世界的な自国優先主義や排外主義に対抗する上で、国際的な連帯が一層必要になってきています。さらには国際社会での日本への信頼や、アスリート及び関係者の御尽力を鑑みると、中止するという選択は考えられません。今、果たすべきは中止ではなく、安心安全に開催するため、主催国として自らに課す、厳しい条件です。

以上のことより、発議第4号東京オリンピック・パラリンピック大会の中止を求める意見書に、反対いたします。